

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ファミリーハウス美原
（ユニット名）	1F
所在地 （県・市町村名）	大阪府堺市美原区平尾1848-1
記入者名 （管理者）	福添 敏子
記入日	平成 21年 4月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ワイワイ、ほかほかとくつろぎと微笑みの家」を理念としてその人らしく、楽しく生活を送って頂けるようにしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を理解し、楽しく生活を送って頂けるように各フロアごとに話し合ったりして、ご利用者に喜んで頂ける様に日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「地域に愛される施設づくり」を施設の方針として又、天寿会の経営理念として地域との連携及び協力を行い地域との交流に地域の福祉サービスの拠点を目指しています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所からも理解をして頂ける様になり自然に挨拶を交わしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平尾地区の集会にもお誘いの声をかけて頂ける様になりました。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人の在宅介護支援センターと協力して、てんじゅ家族のつどいという勉強会や交流会を開催しております。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果や20年度後期に介護相談員さんの派遣をお願いして、ご利用者やご家族のご意見をお聞きして改善できる様に努めています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果等のご家族や運営推進会議のメンバーにもコピーをお渡しして話し合いの場を設けサービスの改善に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会に参加したり美原地区のグループホーム交流会に参加をお願いして交流の機会をつくっています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、対象になる方は入所されていませんが研修があれば参加を予定しております。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の方の訴えだからと片付けないでご本人が納得して頂けるように場合によりご家族にも立ち会って頂き解決に向けて対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を使用して説明を行い退所時には、同法人を希望される場合はご紹介をさせて頂いたり今後の事についても相談にのり不安解消に努めております。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前年度は介護相談員の派遣もお願いして苦情や意見等を聞いていただき改善点があれば話し合い解決に努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末に預かり金の残高の報告や近況をお知らせしており、キーパーソンさんのご面会時には連絡帳を見た頂くなどしております。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情相談係り等の連絡先をお知らせして、家族会や運営推進会議等でもご意見や苦情をお聞かしています。又、行事等へのご家族の参加をお願いする事で信頼関係を築く様に努めています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で開催しています全体会議には毎回参加しておりますので意見や提案を直接、聴く事が出来ます。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全体会議で業務の見直しや体制の変更をその都度、臨機応変に対応しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年以上勤務している職員が3割以上確保できています。又、新規採用・異動や離職の場合は、家族会やご面会時に出来るだけ報告させて頂いております。各フロアーは、フルタイムで働いています職員はフロアーを固定にして馴染みの関係が作れる様に配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自分達でテーマを決めて勉強会を開催したり、同法人開催の研修や外部の研修にも参加出来るようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美原地区のグループホーム交流会に参加しています。他の施設の運営推進会議にも参加して交流に努めています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無料で整体師によるマッサージを受ける事ができ、心身共にリフレッシュできるようになっている。親睦会もあり旅行や忘年会もあるので法人全体で取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	離職率の低い職場の条件の一つに「働き甲斐がある職場」があると思いますので努力する職員は正職に引き上げたり、介護福祉士の資格修得にも協力しています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症がある為、自分の気持ちを伝える事が困難な方は表情や何気ない会話の中からもみ取る様にしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時には、積極的にご家族とも会話するように努めています。ご家族より重度化した時に何時までここで世話してもらえますかと言う質問があります。グループホームで対応できない場合は責任を持って他施設等をご紹介しますり金銭的なご相談にものっております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけご希望にそえる様に当施設だけで対応出来ない時は法人全体で対応させて頂いたり他の事業所も視野に入れて対応する様にしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事情が許す限りは、施設見学にはご本人と一緒に連れまして下さいとお願いしております。基本的にご本人・ご家族に気にいって頂ければ入所のお話を進めさせて頂いております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いろいろな場面でご利用者の残存機能を活かして教えてもらったり手伝ってもらうことで対等な関係を築く様に努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加をお願いして、お手伝いをして頂いたり施設で出来る事出来ない事はお話してご家族の協力も得て一緒に支えて頂く様に努めております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や外出・外泊もできる限りお願いして最低年2回はご家族にも行事への参加をお願いして一緒に楽しんで頂く事でご利用者とのより良い関係を築いて頂ける様に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方やお友達の面会も特に制限はしておりません。又、買物や地域の催しにも参加しておりますのでご近所の方とお逢いする事もよくあり自然なお付き合いは継続できています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お手伝いをお願いする時も気の合う方やADLが同じレベルの方同士に声かけをしたり、さり気なくお話が弾む方同士と一緒に座って頂いたりする工夫はしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されましても、その後は法人全体で対応出来る体制があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いをご家族よりお聞きしたり、ご利用者の気持ちをご家族にお伝えするようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴等を書いて頂きますが、おいおいご本人からや面会時にご家族よりお話をお聞きして行くようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	少人数で職員もフロアー固定の為、現状把握はできています。又、個々の状態の変化も毎日の申し送りで伝えて行く様にしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人が希望を訴えられる事が少ないですが会話の中から引き出すようにしています。面会時にご家族からはご希望等をお聞きするようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実行が出来ているか毎日チェックをしていますので、出来ない日が続く場合はプランを見直し変更しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの記録や評価をしています。必要に応じケアの方法を検討して結果を見ながらケアプランに取り入れたりして見直しをかけたりしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算は指定を受けてはいませんが、ご家族・ご本人の意向であれば主治医と連携して出来るだけ長くお世話させていただく様にしています。専門職による音楽療法やリハビリ体操も実施しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人として消防に応急処置の訓練をお願いしたり、民生委員の会長さんに運営推進会議の委員をお願いしている関係で相談のって頂いたりしています。近隣のボランティアによる陶芸やコーラスレクも定期的に受け入れしております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理髪サービスや移動美容室を利用できる様に支援しています。歯科や整形外科・心療内科等の往診も利用できます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されていますので身近に協力をお願いしやすくなっています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には、施設の主治医に変更されるかお聞きして同意が得られれば変更していますが、かかりつけ医の継続を希望される場合は、ご家族の協力をお願いして臨機応変に対応しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医以外にも心療内科のDrにも往診して頂いていますので、必要があれば専門医を紹介して頂けます。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は常に配置はされていませんが、往診時にDrや看護職員とは顔なじみの為、気軽に相談できる体制が取れている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、お見舞いに行きDrや看護職員より状況を聞いたりご家族からも連絡を入れて頂くようにして、退院後の受け入れ先等の準備をしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医の往診時に必要に応じ、ご家族を交え終末期のお話をしています。ご家族共、今後の事について再度確認をする事で特養の申し込みや受け入れ先等についての意向を事前に話しあっています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に向けてグループホームでどこまで対応できるかの見極めが必要となってきましたので事前にご家族の意向を聞き医療機関や特養等の受け入れ先について検討しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人の同意が取れば一番いいのですが、ご家族の事情やご本人の重度化による退所では同意をえる事は困難ですが事前に情報交換をして退所時には新しい事業所に一緒に付き添うなどして不安を最小限にしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	過剰介護にならない様に注意して、キーパーソンや同等のご家族以外の方に付きましてはプライバシーに関する事はお話し無い様にしております。職員には採用時に守秘義務がある事を教育しプライバシーの保護に努めています。ご家族からは個人情報使用の同意書を頂いております。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	小さな事でも自分で決める事ができる様に意図的に場面を作っています。2・3種類の中からおやつを選んでもらったり、飲み物を自分でコーヒーや紅茶と選択できる様にしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな一日の流れはありますがお散歩に行きたい方やお買い物に行きたい方は臨機応変に声かけして出かける様にしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理髪サービスか移動美容室かを選んで頂き対応しています。又、行きつけのお店がある場合にはご家族の協力を得て対応しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食材の皮むき等、その方の出来る事をして頂いています。後片付けも皆さん積極的に参加されています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	他の利用者にご迷惑にならないければ特に制限はしておりませんので現在、夕食時にビールを飲まれる方はいらっしゃいます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が目立ってきても直ぐにオムツを使うのではなく排泄のパターンをみてトイレへの声かけや誘導を試みて段階を経てオムツの使用を検討する様にしています。 プライバシーに配慮しながら、自尊心を傷つけないように、さり気なく介助する様に心がけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけご本人の希望にそえる様にしていますが、Drの指示により入浴回数を制限されている方や血圧の高い方に付きましては入浴が出来ない事もあります。 入浴時にはリラックスして頂ける様に音楽をかけたりしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中に活動して夜はゆっくり休めるように支援しておりますが、夜間の徘徊や不穏時には温かい飲み物を勧めたりお話を聞くなどして落ち着いて頂ける様に努めています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	荘外での食事会やご家族をご招待しての行事等、一緒に楽しんで頂ける様にしています。 ケアプランで役割を決めて、生き生きとした毎日が送れるように支援している方も張り合いが持てるようにしています。	○	毎年、楽しんで頂けるように年間行事を決めていますが本年度は特に車椅子の方でも参加でき楽しみ事につながる様にご利用者と一緒に考えて実施して行く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して自己管理でお小遣いを持たれている方もいらっしゃいます。 又、施設のお買物に同行してもらった時はお金を支払ってもらう様にしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外の空気を吸いに行ったり施設周りの散歩にと、出かける機会は他施設より多いとよく言われますので希望に添えていると思います。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お誕生日のプレゼントで希望者には普段行けない所に個別にお連れする事があります。 昨年は、ご家族と一緒にステキハウスでの食事会を計画しおおむね好評でした。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話をご本人に取り次いだり、バレンタインデーや母の日・年賀状等、ご家族宛に手紙を出して頂く機会を作っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は決めていませんので、ご本人が活動されている時間帯であればいつでも来て頂いています。又、ご家族と一緒に昼食を食べて頂いたりアットホームな雰囲気の中で過ごして頂ける様に心がけています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのダメージは把握しているが、ご家族共、話し合いDrの許可のもと一時的にベッドを柵で囲む等の拘束はありました。自覚しないで身体拘束を日常的に行う事はありません。フロアーで差があり現在1Fでは身体拘束はありません。	○	身体拘束委員会を毎月開催し拘束をなくすように検討しています。ホーム全体ではご利用者の重度化に向け特に夜間の手薄な時間帯は安全確保上せざるをえない場合もある。しかし、身体拘束をしてはいけないという自覚を常に持って、なくす方向で努力していきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかける事はありませんが、玄関に付しましては通常は施錠しております。職員が外で作業をしている時は開錠したり、ご利用者が外に出たい時は、一緒に出かけ等の工夫はしております。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に安全に配慮しながら所在確認をさり気なくしております。夜間は全ての居室が見通せるリビングで待機しており、トイレ覚醒された時も速やかに対応できるようにしています。又、1時間に1回の巡回も実行しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤等については、夜間は鍵のかかる所に保管しています。ガラスや陶器の花瓶も居室に置っていますが、危険な方にはプラスチックの容器にしたり工夫はしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリとした時は、ヒヤリハットを報告し事故につながらない様に原因を考え対策について速やかに検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的では無いが消防署の協力を得て法人全体の研修会に参加して応急処置の方法を身につけるようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練を年2回実施しています。隣接に同法人の特養がありますので協力体制が出来ており職員も近隣の方が多いので非常時には駆けつける体制があります。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体拘束をしない施設を目指している事を理解して頂き、それに伴うリスクについても説明させて頂き理解して頂けるように努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の体調管理に努め、バイタルチェック等の変化に注意して異変がある時には、主治医の指示を仰いでいます。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握出来る様に処方される薬の目的や副作用についての明細書を必ず添付している。毎日の薬ケースにも薬の作用を明記して服薬時に再度確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトやバナナを食べてもらったり、牛乳の飲む方には、便秘時には少し多めに牛乳を飲んでもらっています。入浴時に腹部のマッサージも必要に応じ行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きをしています。週1回は歯科往診があり口腔内の指導等を受けて清潔保持に努めています。義歯は、義歯洗浄剤を使用して定期的に消毒をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事内容は個人記録に記録して、必要な方は水分摂取量を計測しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を実施したり、ノロウイルス対策等のマニュアルを作成しています。生物の持込等につきましても、ご家族の協力を得て予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	出来るだけ新鮮な食材を購入して食の安全を心がけています。特に布巾やまな板は漂白剤を使用して消毒の徹底を図っています。。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご利用者がお花がお好きなので玄関周りは、常にお花が咲いています。自然に明るい雰囲気で季節感があり親しみやすい出入り口になっていると思います。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気で、日本古来に風習を大切に四季に応じた催しを心がけています。3月はお雛様を飾って散らし寿しを食べる等、季節感を演出しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーから少し離れた場所にも、イスを配置して気の合う方同士が外を見ながら会話できるスペースを用意しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具等をお持ち下さる様にお願いしていますが個人差があります。何も無い方が落ち着く方もいらっしゃるようですのでご本人とご家族にお任せしていますが、時にはアドバイスをさせて頂く事はあります。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フローアは定期的に換気に努め居室に付きましては、各居室にエアコンがありますのでその方に適した温度調整をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な所には、手すりを配置しご利用者が使いやすい様にシンクは低めに設定されています。他にもS字フックを使用して高さを調節する事でご利用者にも洗濯物を干しやすくする工夫をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一度に指示を出しますと混乱される事がありますので、指示は簡単にして理解されたかを確認しながら次の指示を出す様に心がけています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	最近、は、さくらんぼやブルーベリー等、収穫できる木を植えて大きくなるのを楽しみにしています。 気候がいい季節はパラソルとイスを用意して外気浴や日光浴を毎年楽しんでいます。屋外でのバーベキュー大会や焼き芋大会は恒例になっています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームではご利用者本意でいろいろな事を考えるように努めています。 年度はじめに、ご利用者に喜んで頂けるプランの提案を職員から募集したりご利用者からの希望を